

2021.04.09.「聖書の学び」

神の摂理

Mac 牧師の証

では今晚は！JD 牧師の代理です。ここカルバリーチャペル・カネオへの木曜夜の礼拝ライブ配信にご参加して下さりありがとうございます。通常この時間は、旧約聖書を節ごとに学びますが、今日は、特別な学びをしたいと思います。今夜の学びを始める前に、心からの祈りをしましょう。

天のお父様。このような機会を与えてくださった主に感謝します。多くの人にはこの能力がありませんが、あなたは私たちに、この能力を与えてくださいました。それを失わず、最高の形で完全に活用させていただきます。あなたの御言葉に耳を傾け、聞き、実践します。今夜の学びは、主が共にいてくださり、私を乗り越えさせてくださいますように。私たちは皆、あなたの言葉に耳を傾けています。あなたが今、ここで私たちと出会ってくださいますように。救世主キリスト・イエスの御名において 祈ります。アーメン。

では、さて、今夜の学びは「神の摂理」をテーマにしますが、前もってこのことをお伝えしておきます。これは控えめに言っても、非常に個人的な話題ですまたこのテーマに取り組むにあたり、私の個人的な内容だからと言って、決して私のことを話題にしていると思われないう祈ります。そうではないのに、こんな風に言わなければならないのは悲しいです。しかしそうは言っても、メッセージを見逃してしまう方が何人かはおられるでしょう。皆さんのために祈ります私は、神が私の人生にしてくださったこと、そして今もしてくださっていることについて話します。自分が特別な存在であるとか、ふさわしいなどと思われたくありません。事実、私は自分が塵に過ぎないことを知っています。私は紛れもない罪びとであり、救われた罪びとです。それについて神に感謝します。しかし私たちの人生で、人生を通して神が良いお方であると語ることがない場合、問題があります。そうしないと、私たちはしばしば神の栄光を奪うこととなります。想像してみてください。もしも聖句の御言葉が、神が人々の生活の中でどのように働かれたかを明らかにしていなかったならと。考えてみてください。私たちにとって、聖句に関わることがどれほど難しいことになるのでしょうか。ほとんど不可能と言ってもいいでしょう。そして、このミニストリーで私がさせていただいたすべての学びの中でも、これは圧倒的に厳しいです。その主な理由の一つは、神の栄光が明らかになると、常に人間の弱さが露呈するからです。この場合の「人」とは、私のことです。ですから 主の祝福により、まず、神の摂理の定義から始めたいと思います。その後続いて、主の知識の側面、人間の自由意志、神に頼り完全に任せること、神のみに頼ることを明確に示す一連の出来事に入ります。

では、神の摂理とは何でしょうか？ 皆さん全員が同じ方向を向いて欲しいと思います。では、神の摂理に関するこのシンプルな定義に同意しましょう。それは、神によって決定される行為です。つまり私たちの関与は、いわば無関係に近いのです。ほとんどの場合、最小限なのです。なぜでしょうか？ 神ご自身が栄光を得られるからです。考えてみてください。神の摂理の過程で、私たちがある程度用いられていても、神はしばしば、彼の是正が目を見張るようなものにされるために、私たちに大きな過ちを犯すことを許されます。それらの是正を偶然や状況と考えること自体、馬鹿げているとしか思えません。それが彼の摂理なのです。また、次のことも考えてみましょう。神の摂理の中には、神の完全な主権と人間の自由意志が含まれています。これを実現できるのは神だけです。もしこのことを人生で目撃した人がいるなら、神のなさることは全て良いことで、驚くべきこと以上だと同意してくれると思います。神のなさること

はすべて良いことだからです。あらゆることが。これをまだご経験のない方は、今夜それを経験されることを祈ります。さて、私がこの話をしていくために、10年以上前にさかのぼります。2009年、私たち家族はこの島に来ました。私たちがこの島に来てから2年が経った、2011年のことです。私は仕事を順調にこなしていました。私は港湾業務担当者でしたが、家の中は全くうまく行っていませんでした。主とともに歩んでいたわけでもありません。誤解のないように言っておきますが、私はイエスを知っていました。実はその何年も前に、私はイエスの血潮で救われたことを知っていました。しかし2011年当時、私はイエス以外のことに専念していました。そのとき事が起こりました。妻に突きつけられたのです。

「当然だけど、あなたはちゃんと養ってくれて私たちの面倒を見ているわ。でも、やっていることは、仕事に行き、帰宅し、第二のお仕事としてお酒を飲んで、音楽を聴いているのね。」それも、ワイングラスではありません。車のエンジンをかけれるほどの強い酒です。自慢にもなりません。そういうことです。この家内の言葉を聞いた後、2歳、まもなく3歳になる娘がそばで見ているのを見て私は心が折れてしまいました。心が折れました。心が折れたのは初めてではありませんが、このことでゴールを真剣に求めるようになったのが初めてのことでした。

**「あなたがわたしを捜し求めるとき、心を尽くしてわたしを求めるなら、わたしを見つける。」(エレミヤ 29:13)**

さて、これは捕囚がユダの地に帰還することに関連していますが、すべての人の心、特に主が真の生ける神であることを知っている人の心にも語りかけます。神という名を知っている以上に、神を見つけることと神を知ることは違います。神の名を知っていると公言するクリスチャンはたくさんいます。私はその中の一人でした。しかし、主を本当に知るために熱心に求めていた人は、ほとんどいないようです。繰り返しますが、私は主を知っていました。でも私は、私のイエスが誰なのかを本当に知らなかったのです。ご存知の通り、私の主の求め方と言うのは、自分の問題がある限り主を探しました。しかし問題が解消されると、主とのコミュニケーションも消しました。ありがとうございます。私はあなたをもう必要としません。もう大丈夫です。しかし、私が壊れたことで、真剣に主を求めるようになって、状況は変わり始めます。しかし、それには時間と試練が必要です。主を真剣に求め始めたばかりの人は、試練が迫っていますので、その準備をしてください。そして、それは祝福の裏にあることが多いのです。そしてこのことは、私に起こった通り、真の生ける神への献身のための訓練です。そして、おそらくこれは誰にでも起こることではありません。しかし、この壊れた状態の私に、主は奇跡的なことをしてくださいました。彼は多くの悪い習慣を瞬時に取り除いてくださいました。瞬時にです。私の意見では、彼を真剣に求めると奇跡のように消えていくと私は思います。そして、これから自分の道を歩いていくんだと知ったので、ワクワクしました。そして、試練が始まります。それを考えてみてください。私はイエスに従うことを決めた♪～ですよ？それが私の心境で、それが私の考えです。そこで私は聖書を手に取り、自分で聖句を読み始めました。私は神を知りたいのですが、敵が来て、全てを狂わせようとします。すべての私の計画、または私のための神のご計画を、です。それはメイソンと呼ばれる方法でした。多くの公言しているクリスチャンにとって、メイソンを論じるのは避けたい話です。特にアフリカ系アメリカ人のコミュニティでは。本当です！多くのクリスチャンと仰る方が敬虔なメイソンです。私は、彼らがすべての装飾を身に纏い誇らしげに教会にいるを見たことがあります。私はそこに惹かれたのです。聖書をテーマにしていると聞いて、私も参加してみようと思いました。ある日、ハイウェイを走っていると、道端で掃除をしている人たちを見かけました。なぜかわかりませんが、車を停めてしまいました。そして、私はこう

言いました。彼らがチームを欲しがっているのを知っていました。「どこからボランティアに来たのですか?」「私たちはボランティアではありません。」一人が言いました。「私たちはメイソンです。」それから彼らは私に、聖書聖句を引用しました。そして名刺を渡す。彼らはあなたを掴み、縛ります。しかし皆さんに知ってもらいたいのは、彼らは単に男性のグループが親睦会を行ったり、地域に貢献するためのクラブではありません。核心は、これはサタンの組織であるということであり、彼らは見事に騙されています。誰を怒らせてもかまいません。自分が経験したことだからです。このことを知るのに時間がかからなかったことを神に感謝します。そして、助けてもらいました。ネイサンという名の兄弟がいました。ネイトと呼んでいます。神が彼を私に送ってくださったことを永遠に感謝します。しかし繰り返しますが、メイソンに関する問題の事実は、聖書を基礎的な実践として使用した男性の多信仰包含グループで、イエスの御名を消し、宇宙の偉大な建築家の名前を呼び求めているのです。そして彼らは、宗教的な組織ではないと主張しますが、実際にはそのトップを崇拝しており、最終的にそのトップというのは悪魔です。この時点で私は、自分で聖書を読み始めたばかりだったことを覚えています。ですから悪魔が私を攻撃する絶好の機会でした。それって聖書が語るまさにその通りです。私たちがよく知っている節、「第一ペテロ 5 章の 8 節」に書かれています。

**「身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。」(第一ペテロ 5:8)**

使徒ペテロがこれを書いて、敵を獅子と表現するとき、これが獅子の欺瞞的な戦術を指します。敵は、弱いものを嗅ぎ分ける能力があります。また、救われて何年経っていても、イエス・キリストの恵みと知識の中で成長していなければ、私たちはまだ歩み始めたばかりの赤ちゃんと同じで、傷つきやすく弱い存在です。これを自然に例えると、新生児は最も遅く、最も弱い存在ではないでしょうか。これが私の霊的な状態でした。これが、多くの人がクリスチャンを背景にしたカルトの犠牲になっている理由でもあります。しかし、神は。

**「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」(ローマ 8:28)**

そして私は早い段階で、「なぜ神は私に、メイソンを使って、このような試練を与えることを許されたのか?」と疑問を持ちました。その理由は、最後に神が栄光を得られるためです。すぐに、彼の御言葉だけに集中するよう導いてくださいます。分派の必要もなく、ある種の奉仕活動のようなプログラムに参加する必要もなく、神学のコースや書籍も必要ありません。なぜなら、私の歩みと人生のこの時点で、私と神だけのための時間が必要だったからです。私と神だけ。邪魔は一切ナシ! そのため、主は私に集中させてくださいました。そして、ここからその深くて親密な関係が始まるのです。まず熱心に主を求め、次に主に試されます。その結果、ただ主と二人きりになりたいと思うよう導かれました。主が私の心に置いてくださるこの願いのために、主の神の摂理に適った一連の出来事が起こり、展開されることとなります。そして突如、「オフィスを奥まった場所に移せ」と命令(異動辞令)されました。最初に見たのは、小さな穴のような空間でした。それは、守衛室のクローゼットを仕切った場所で、物を撤去し、雨水が滴っていました。そして「じゃあ頑張る。」と言われました。しかしこのオフィスには、私と、先ほど話をしたあの兄弟、ネイトが一緒だったのです。お昼休憩に、一緒に聖書を読み学びました。それから、私たちの姿勢は劇的に変わりました。

「箴言 27 章 17 節」です。

### 「鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。」(箴言 27:17)

そのクローゼットの中で、これが起こったのです。私たちが謙虚になってそれを受け取るならば、この箴言は真実です。と言うのも、研がれる作業は本当に難しいのです。私たちは、熱く語り合っただけでもいいでしょう。しかしそれらすべてが、私たちの向上と益のためでした。しかし悲しいことに、私たちの多くは、学びで挑戦することではなく、プライドを高くしてしまうのです。そして否定できない真実が提示されても、私たちは無知のままです。「私はこれとあれを信じている。」とか「これは私にとってこういう意味があるんだ。」とか。皆さんなじみ深いでしょうか。「箴言」の「鉄は鉄によって研がれ、」をお聞きください。そしてどのようなものを想像してみてください。それは摩擦です。御言葉はそう言い切っています。人が友の表情を鋭くする。これが友のする事だと。真の友の。この世で最も偉大な友、イエス・キリスト。彼は、その御言葉の中で、御言葉を通し、私たち一人一人をこのようになさいます。そうではありませんか？ 私たちは、大胆にもそのような聖書的な方法で私たちと関わってくれる友を歓迎すべきです。なぜなら、神がそれを尊重してくださるからです。容易くないかもしれません。でも必要なのです。そして私は、主との親密な関係を築いています。主は私の理解と性格を研ぎ澄ますために、このキリストの兄弟を与えてくださいました。しかし私たちには、何か重要な要素が欠けている事がわかっていました。それは、聖徒たちと一緒に集まることでした。そこで検索を開始したところ、これが一番納得のいかないものでした。神を求めることは、継続的なプロセスであることをさらに実感しました。御言葉への純粋な渴望があるなら、それは絶え間なく続きます。多くのクリスチャンが、聖徒たちとの集會に憧れますが、集會で養われないため失望し、躊躇っていることを私は知っています。飢えていて、多くの人が御言葉を聞くために教会から教会へと渡り歩いているのです。しかし、御言葉が語られるのではなく、プログラムばかりになってしまっているからです。ネイトと私は多くの場所を訪れました。ああなんと、その愛や教会の冷たかったことか。皆さん、その 2011 年がコロナウイルス発生かと思われたでしょう。そこを歩いていると、信じられません。このことは、クリスチャンの歩みに影響を与えます。養う人とそうでない人が、他でもない主御自身に責任を問われることとなります。それは恐ろしいことです。しかし、御言葉が語られていないことは驚くべきことではありません。それは、イスラエルの子どもたちに起こったことであり、こんにちにも起こっていると思います。「アモス 8 章 11 節」が語っています。

### 「見よ、その時代が来る。一神である主のことば一そのとき、わたしはこの地に飢饉を送る。パンに飢えるのではない。水に渴くのではない。実に、主のことばを聞くことの飢饉である。」(アモス 8:11)

ハッとします。私たちはそうではありません。特に必死に主を探し求めている時に、それでは心が折れてしまいます。ではどうすればいいのかというと、神を求め続けることです。なぜなら、神はそれを尊重してくださるからです。これが、神を求めることをやめるための言い訳にはなりません。そのキリストにおける兄弟、ネイトと、私たちの家族同士と一緒に集まり始めました。ある日彼が、「この人の動画、見た方が良いよ。」とリンクを送ってくれました。その人が、JD 牧師でした。それで、Youtube で JD 牧師の説教を数ヶ月間見ました。実際には 1 週間遅れでフォローしていて、彼がこの島にいることすら知りませんでした。だから私たちはずっと、ただメッセージを聞いているだけだったのです。アロハも何も聞き捨てしていません。ただの Youtube だからという感じで。そしてある木曜日に、ネイトが「なあ、彼に会いに行こうよ。」と言うのです。私は、「会いに行くって??? どういう意味???」と。彼は、この人がカネオヘにいますと言うんです。当時の私は、この島の反対側に行ったことがありませんでした。考えてみて

ください。この島に来て2年です。なんとお恥ずかしい！！ なんとということでしょう。そして、木曜日の夜に来るようになり、しばらくして日曜日には家族で来るようになりました。言うまでもなく、私たちの人生はこの時に大きく変わりました。そして、ある日曜日のこと、JD 牧師が教えの最後に「第一ヨハネの2章16節」を引用しました。お読みします。

**「すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。」(第一ヨハネ2:16)**

それは「人生のプライド」に関する記述です。それが私の注意を惹きました。ビックリして、私は、その本当の意味を調べなければなりませんでした。そしてJD 牧師は、次のように仰いました。「この状態で生活していると、」彼は大変恐い面持ちで、それは持続不可能だ。」彼はそう口にして、私を見ていました。彼はそう言って立ち去りました。私はまるで「私が何かしたのか??？」でした。なんとということでしょう。聖霊が本当に私を捕らえ、腹の底を探ってくださいました。ああ、それが私を粉々に打ち砕きました。その主な理由の一つは、軍隊でプライドについて多くを教えられていたからです。これがプライド！あれがプライド！プライド！プライド！プライド！しかし謙虚さについては、ほとんど何も聞きません。そして、これが清めの始まりでした。今まで慣れ親しんできたその体制的なプライドを、追放する作業は大変な痛みを伴います。誰もが程度当てはまることだと思います。軍隊だけではなく、皆さんが自分が理想化する仕事においてもです。しかし問題は、私たちは常にクリスチャンであることがまず第一です。そして、もし私たちがクリスチャンであることを第一に考えていないのであれば、私たちはその歩みに失敗しています。というのも、主の御言葉やその方法は、教会とたまに家で、というだけの適応ではありえないのです。これは私たちの生き方なのです。職場を含め、あらゆる場所で適用されるのです。神は、私たちの肩書きや仕事の格式を気にされません。私たちが神の御言葉に従順であることを、神は大変気になさっています。プライドは、生きる御言葉に含まれていません。心に響きました。それから仕事に試練がやってきました。そのことには触れないでおきますが私は試練に合格しました。なぜだかわかりますか？ 祝福が教会からもたらされるからです。その機会は、このミニストリーで私が持つことになる最初の任務でした。SDA ビルを借りていた頃のことを思い出します。2012年です。賛美チームリーダーのLeituが、今でもそうですが、当時彼が仕事の都合でできなくなってしまったので、土曜日の夜に看板を出してくれる人を会衆に探していました。そして誰も見つかりませんでした。それでその後、彼に声をかけて「僕がやります。」と言ったのです。それをしたことで大変祝福されました。毎週土曜日の午後4時半、娘と一緒に聖書を持って車に乗り、カネオへまでの約25分に、聖書を聞きながら、そして看板を出してまた戻ります。毎週土曜日、私と娘だけで1時間、御言葉を聞いたり、一緒に話したりしました。私は、一週間のすべての任務の中で、それが最大の任務となったことに感謝しています。看板を出すことが、それだけの意味を持つとは誰も思わないでしょう。はい、でもそうだったのです。そして一年ほど経った頃、神の恵みにより、私が話したあの兄弟ネイトを思い出してください。彼は少尉に任命され、そして、彼は私に彼の将校になるよう依頼してきました。そして、当時借りていたSDA ビルの教会でやってくれと頼んだのです。写真は、2013年9月に教会で行われたセレモニーの後に撮った写真です。写真中央に映っているのが、ネイサン・ミーカー（ネイト）です。その数週間後、ネイトと彼の家族はコネチカット州に引っ越すことになりました。そして、主が私にこのミニストリーで第二の任務を与えてくださることになりました。先の賛美チームリーダーで、チームミニストリーのリーダーLeituが、近づいて来て「若者グループに教えてみないか」と言いました。「何ですって?!」この頃、私は聖書を初めて完読

しましたが、誰かに教えるには全く力不足だと感じました。しかし Leitu は、穏やかに私に言いました。「書を選び、祈り、そして教えなさい。」そのため、何度も祈りました。私は「使徒の働き」を選び、若者たちに教え始めました。あの楽しい看板を出すことから一年近くたって、因みに離れるまで続けていましたが、私は、聖書のひとつの書を通して、若者に教えることを求められました。「ルカの福音書 16 章 10 節」、

**「最も小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実であり、最も小さなことに不忠実な人は、大きなことにも不忠実です。」(ルカ 16:10)**

私が特権だと考えたなど一瞬たりとも思わないでください。私はそう感じていませんでした。私は、当然のことながら震えていました。その出来事は、私の人生の中で最も過酷な任務でした。再度考えてみてください。看板を出すことから、神の若者に教えることになったのですよ。同じ若者世代は、ムカついたら首に石臼を巻いてブロックに投げ込んだ方がいいと言います。この任務に就く前は、日曜日の礼拝だけに来ていました。でもすぐ帰っていたのは第二礼拝で駐車場が混雑して大変だったからです。木曜日の夜は、ネイトと私が一緒に車で来ていたこともあり、娘たちを寝かしつけたりするために、少しの時間しか滞在できませんでした。時間が押していたので、そのことを言う理由は、若者に教えるようになって、誰が誰だかわからなく、教会の指導者を受け入れない人が誰なのかわからなかったからです。ご家族で来られてる方をフォローしてなかったので、誰と誰が関連しているか把握していませんでした。その後、私が今や教えていた若者グループの 10 代の子たちの中に、リーヴァイ・ファラグという名前の若者がいることがわかりました。JD 牧師の息子さん、の一人です。そうなんです。ちょっと言わせてください。リーヴァイは勉強熱心な若者でした。つまり、中途半端な話題で入ってきたわけではないということです。彼は疑問を持っていました。—(笑)— 私はこんな風でした。

「主よ、なぜこんなことをなさるのですか？ 神様、私は何かしてしまったのでしょうか？」

そして、JD 牧師と話したことはありません。それどころか彼は、いわば教会の中で私のことを認識してなかったと思います。しかし、彼は非常に注意深く観察し、見極めていました。神はリーヴァイを使って、最終的に誰が説き教えるのかを私に思い出させてくださいました。その結果、ただ読むだけではなく、聖句を熱心に学ぶようになり、神の御言葉への従順を深めることができました。そして、これは必ず必要なことです。それは当時も今も変わりません。「テモテへの手紙第二 2 章 15 節」で神が語っておられます。

**「あなたは務めにふさわしいと認められる人として、(神が私たちを認められます) すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神に献げるように最善を尽くしなさい。」(第二テモテ 2:15)**

そのためには、熱心に勉強しなければならず、その熱心な勉強には、スポルジョンが言う通り跪いて祈ることも含みます。どんなに偉大な先生でも間違いを犯すことはあります。でも誰かが自分の話していることを理解していないと見抜くのは簡単です。チーム・グループにその要素があるだけで、それが誰なのかを知らずして、違いが生まれます。御言葉を教えようとしている人たちについてを知らなければ、彼らが話していることは、その後続くこと、あるいは続くべきことは、恥の塊です。いかに神の御言葉をいい加減に扱う人でしょうか。すべての教師が異なる基準で裁かれることを知りながら、もしあなたが、自分が教えたり説いたりするよう召されていると思っているのに、必要な時間や熱心に奉仕する準備ができていないなら、どうか自分を傷つけないでください。これは楽しい仕事ではありません。その犠牲

は、この教えの範囲を超えています。これは最も危険な召しです。しかし、私には助けてくださる素晴らしい先生がいたことに感謝しています。JD 牧師は、今でも私を助けてくださり、彼から学び続けています。そして主が下さった3回目の任務は、2014年5月、木曜日に、私がJD 牧師の代役を務めることです。言うまでもなく、私は大変恐れ震えあがりました。10代向けが限界だと思っていたのに、今度は木曜日に、JD 牧師の代理で教えるなんて、考えられませんでした。でも3週間、考える時間をもらったのはとても良かったです。—(笑)— 本当に本当に祈りました。彼が何をしたかご存知ですか？ 彼は家内に話したのです。家内は私にこう言いました。「私が主の邪魔をしてはいけません。」と言い、すべてを私に押し付けました。だから、多くの祈りをしました。しかし主が示してくださったのは、チームを指導したり、繰り返しになりますが看板を出すのを託したりしながら、この召しも私に託されたということでした。ですからJD 牧師のために気持ちを込めました。そして、メッセージを伝えている間に気絶しなくてよかったです。しかし、この出来事は30日に起きたことなので、私は混乱していました。兄弟ネイトがコネチカットに行った10ヶ月後に、私たちが、ハワイからコネチカットに行く辞令を受けたばかりだったのです。すぐに彼に合流することになっていました。私たちは予定通り7月に出発しました。JD 牧師は、私たちがコネチカット州でミニストリーを始めるため、いくつか資料を提供してくれました。その資料の中に、「ピリピ人への手紙の1章6節」の神の御言葉がありました。

**「あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。」(ピリピ1:6)**

それがどれほど励みになったのでしょうか。彼が教会を始めるために下さったファイルが間違いなくたくさんありました。そして私といえば、まずネイトと会うまでは、ミニストリーを始めるわけではないという感じでした。そしてネイトは私を教会に連れて行きました。牧師さんが両手を広げながら迎えてこう言いました。「霊的な荒地へようこそ！」それは励ましではありません。つまり彼は、この辺りにはクリスチャンが殆どなく、いわば霊的な荒地だと説明したのです。言ってみれば、彼の言い方です。そう、半年ほど経ってから、自宅で小さなミニストリーを始めることにしました。それが4回目の任務で、家を行き来しながら、最終的に私の家を中心に学ぶようになりました。この画面写真が、私たちのミニストリーロゴです。小さな集会でした。しかし、私たちは御言葉のミニストリーを大きく成長させました。今ならまだググれますよ。コネチカット州にある私の自宅の住所がわかります。JD 牧師にこのロゴを送りました。学び続け、読み続けるよう励ましてくださいました。神の聖徒たちと集うことがどれほど大切なことか、言葉では言い表せません。私たちは世界を変えることができました。忠実な集まりの中で、神は必ず羊飼いを起こしてくださいます。霊的な荒地だったとしても、関係ありません。しかし私たちが集まるならば、主は忠実に羊飼いを起こしてください、決して私たちを離れず、見捨てられません。それが彼の御言葉で、私たちがこれに対しての証人でした。私たちの小さな家庭集会で。そして教会にも通っていましたが、しかしこの親密な環境の中で、多くの豊かさを見出したのは、神の御言葉の集会に全時間を集中させていたからです。素晴らしいことでした。そして2年後の2016年、兄弟のネイトが、今度はジョージアに赴任辞令がでました。しかし私たちは、この小さなミニストリーを続け、順調でした。JDのオンラインも見っていました。そして、それは起こりました。4ヶ月が過ぎたとき、私たちの小さなミニストリーに参加していた誰もが、離れるか転勤するかになりました。私と家族だけになったのです。私は最初、「主よ、わかりました。終わりですね。」と。ここで電車を降りる。乗っている間は良かった。ミニストリーは完全に失敗だったと思いました。それが私の思ったことでした。それで、また教会を行き来する

ようになったんです。それから担当者から電話がかかってきて、「ハワイに戻ってほしい」と言われました。資金調達の条件を考えると、非常にショックでした。皆さんご存知なければ、政府はケチですから。ですから、これが最後の異動かもしれないと思いながら、はるばる東へ戻ってきたのです。彼らは、私の家族と一緒に戻さなければなりません。私を東海岸に置いておけば、何千ドルも節約できたはずですが。しかし、彼は言いました。「あなたには戻ってもらいたい。あなたのためのポジションがある。」反論すると思いますか？ 2017年4月上旬に、JD牧師にメールしました。ハワイに戻るかもしれないから、そうしたら看板を出せるようになりますと話しました。もし必要でしたらと。その時、教会の大きなものがあるから、もう看板を出す必要がないのを知らなかったのです。しかし、私はとにかく自分の奉仕を申し出ました。数週間後、JD牧師から返信があり、彼と私だけで、カンファレンス電話をしたいと仰いました。彼はその日を2017年5月19日に設定しました。月曜日でした。その月曜日の朝、画面ショット通り私は正式に辞令を受けたのです。私と私の家族をハワイに戻すための。その正式辞令が5月19日のその朝でした。その同日、私たちはカンファレンス電話をしました。仕事から帰ってきたとき、完全にショックを受けて、約束の時間、私の時間で午後6時に彼に電話をかけました。彼の時間は正午だったと思います。そして彼に、辞令を受けたことを伝えました。私は看板を出すのを申し出ました。その時、彼は私に彼のアシスタントになってほしいと仰ったのです。これが私の5回目で最後の任務です。戻ってきて、私は木曜日の夜、JD牧師が教える前に、JD牧師に会いました。主は、私が私の残りの人生をこのミニストリーで奉仕すると言われたと話しました。なんて大胆な主張でしょうね。その宣言は、試されることになります。はいまさに。実際、あれから約4年。COVID-19/コロナが起こした様々なことのうちそれは、不動産の狂乱を生み出しました。ハワイでは、その狂乱は異常です。その通り、狂気の沙汰が異常なのです。そして、2020年9月に家を探し始め、かなり良い戦略ができたと思っていました。私たちは恐ろしい目に遭いました。この市場では、競争に勝てないことが明らかになりました。その後、キリストにおけるある姉妹が私にこう言いました。「自分のために動いてくれる不動産屋が必要よ！」彼女はまるで叫んで言いました。因みにそこにいるメルですが。彼女は私に叫びました。6人の不動産業者がいて、7人目にイサク・ジェームズという名前の方がいました。この名前を覚えておいてください。神は笑って取り計らう、という意味ですね？ ほ～ 私はそれに気づくべきでしたが、気づきませんでした。私たちはただ話ただけでした。数か月经ちましたが、状況は変わらず、私たちには家が見つかりませんでした。「残りの人生をこのミニストリー捧げます」とJD牧師に伝えたあの私の宣言は、心の中からすべて消えてしまいました。では、この軍人男は何をするのでしょうか？ 準備するのです。この島を出る準備です。それが私たちのしようとしていたことです。そんな状況のせいで、二心になってしまいました。神が始められたことを、最後までやり遂げてくださるという信頼を失いました。私は、神の摂理の論理ではなく、人間としての自分の論理に頼りました。悲しいことに、今回の試練に関して、本当にいろいろな意味で失敗したと思っています。「ヤコブの手紙1章2～7節」これは明確に私の事です。

### ヤコブの手紙1章

**2 私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。**

**3 あなたがたが知っているとおり、信仰が試されると忍耐が生まれます。**

私は、この1番(2節)2番(3節)に失敗しました。次は4節です。

**4 その忍耐を完全に働かせなさい。(私はしませんでした。) そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。**

5あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。

6ただし、“少しも疑わずに”、信じて求めなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。

7節。これをお聞きください。

**7その人は、主から何かをいただけると思っはなりません。**

私は何もいただけませんでした。言葉もありません。私は私の神を疑ったのです。信仰を持って一步踏み出すというのは、まさにそのことです。そして私の問題は、これが巨大な一步だったこと、そして今でもそうです。

『しかし、神は。』彼は、私たちが巨大だと考えるどんなことよりも大きなお方です。私が考えるその巨大な一步は、神にとっては瞬きする必要さえありません。このことを通じて知っているのは、JD牧師は一瞬たりとも揺るがなかったことです。事実、私が荷物を纏めて、この島を出ようと準備していた時に、JD牧師が何と言ったかご存知ですか？ 彼は、こう言いました。お見せします。

私は「私たちは島を出なければなりません。もう終わりです。」などなど。彼は「受け入れない！」と言ってそのまま歩いて行きました。マジな話です。その時私は、本当に彼は狂っているんだと思いました。私は周りの人に囁きました。「彼は私の話を聞いてくれない。”そうじゃない”しか言わないんだ。」

そして私は彼に、仕事の面接を受けると伝えました。後になって聞いたのですが、JD牧師は、それがなくなるか、大失敗になるよう祈ったそうです。悲しいのは、私が面接を受けたことです。それは、完全な大失敗だったんです！ どれだけ大失敗だったかは証人もいます。数週間前の木曜日、教会の前でキリストの兄弟姉妹と一緒に時間を過ごしました。本当に島を離れるための最終的な計画を立てていました。しかし、私は祈って教会に来ました。実際には駐車場にです。鍵を忘れてしまったから。誰か中にはいたのですが、私は外に座って、主にこう言いました。

「主よ。あなたに全て委ねます。私はただ、あなたの御心通りしたいのです。全てを捧げます。もう何があっても構いません。」「あなたがすべて持っておられます。私には何もありません。」私は家に戻りました。そこのブロックに住んでいて、食事を始めました。1時間後、電話がかかってきたのです。それは、イサクというあの男性からでした。彼はこう言いました。「主が、家を見つけてくださった。」イサクも普通じゃありません。皆さん、彼が何をされたかご存知ですか？ 彼はドアを叩きながら、戸別訪問し、家を売りたい人を探しまわったのです。そして彼は、家を売りたいと考えている敬虔なご夫婦を見つけました。神だけがこのようにお出来になるのです。画面は、私が仕事に行くときに乗るバイク写真です。私のバイクの右に、素敵なお赤のフォード車があります。隣に止めるようになって、ほぼ4年ほど経ちます。この車を運転する人は知りませんでした。主が私たちに与えてくださる家を見学に行くまでは。この車の持ち主が、私たちが買おうとしていた家の所有者だったなんて、信じられますか！！ この話は他にもっとたくさんのお出来事があります。でも時間の都合上ここまでにしますが、全てが神がなさってくださいましたことなのです。主の神の摂理とは、素晴らしいものです。私や誰もが果たすべき役割は、信仰に踏み出すときに、完全に委ねることです。それは、主の栄光とその栄光だけのために、主の強大な御手が動くときです。そして、私たちが経験してきたこの試練の続きに、彼の神の摂理が展開されるのを今でも見えています。また、J.D.牧師についても知っています。何を話しているのかなど全く議論になりません。

彼は私の教えを審査しません。このミニストリーは、御霊（聖霊）の導きです。ここは、仲間内のミニス

トリーではありません。ここは、神の御言葉と私たちの証の実が全てです。この証が何らかの形で、祝福になることを願います。繰り返しになりますが、私のことではありません。メッセージを受け取ってくださいの祈りをします。特に祝福が再びもたらされる時には、より多くの試練がやってくるのを留意ください。そのおかげで私たちは主への奉仕を続けることができます。敵は狂っていて、すぐそこにいます。私たち家族のことですが、どうか皆さん、家内のためにお祈りください。木曜日に、左胸に腫瘍が見つかり今月の19日月曜日、生検を行います。どうかお祈りください。彼女は子どもミニストリーに奉仕しています。皆さんのお祈りをどうかお願いします。名前は、ターニャといいます。家内のためにお祈りくださいますように。私の方は、右の腎臓肥大が見つかり、来週の木曜日に超音波検査を受ける予定です。皆さんのお祈りをお願いします。同情せず、ただお祈りください。私たちには、一日が何をもたらすかはわかりません。ただ私が知っているのは、

**「あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。」(ピリピ1:6)**

ご起立ください。祈りましょう。天のお父様、ありがとうございます。主よ、今晚の教えと、あなたが私たちと共にいてくださることを感謝します。私は祈ります。あなたの御力が私たちの前に現れ神の摂理によって動かされ、触れられた人々の良き証人となるよう、私たちに使わさせてください。信じていない人はそれを目撃するでしょう。あなただけが私たちの中で、また私たちを通し、あなたの栄光のために、その良い仕事を完成させてくださることを知り、信じ、私たち全員が信仰への跳躍ができるよう助けてください。私たちはあなたを愛し、あなたを褒めたたえます。イエシュア、キリスト・イエスの力ある御名において。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7